



豊玉二中だより

令和2年度 第8号
発行日 11月2日(月)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

運動会を終えて

副校長 木原 賢三

爽やかな秋空の元、第59回運動会が行われました。今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、様々な学校行事が中止・縮減され、運動会が豊玉第二中学校にとって今年度初めての全校生徒が一堂に集い、心を一つにして取り組む学校行事となりました。また、3年生にとっては、豊玉第二中学校で行う最後の運動会となりました。今年度は運動会の見せ場となる大ムカデ競争等の学年競技やクラスの気持ちを1つにして取り組む大縄跳び、小中連携競技の綱引きなどが中止され、規模や内容が縮小された運動会となりましたが、3年生が中心となり、仲間とともに心を一つにして、最後まであきらめずに全力を尽くして活動する姿がありました。競技一つ一つに力を尽くし、よく頑張り、本当に楽しそうに取り組んでいる姿は、今、新型コロナウイルスにも負けず、仲間と共に過ごしている素敵な時間であると感じました。

さて、本来であれば、今頃はまだまだ東京オリンピック・パラリンピックの興奮も冷めやらず盛り上がっている頃ですが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大で東京オリンピックが延期され、来年の五輪が期待されています。東京オリンピックの開幕までちょうど1年前を迎える日、白血病からの復帰を目指す池江璃花子選手が国立競技場から世界へと「コロナ禍に苦しむ世界に『希望の力』が必要である。」とメッセージが発信されました。その中で、池江選手は「白血病という大きな病気になり、思っていた未来が一夜にして、別世界のように変わるとてもきつい経験をしました。そんな中、たくさんの医療従事者の方に支えられていることを実感し、感謝の気持ち、そして、スポーツが様々な人の支えの上に存在するという気持ちを持つようになりました。さらに、スポーツは人に勇気や絆をくれるものです。」と述べています。一方で、「逆境から這い上がっていく時には、どうしても希望の力が必要です。希望が、遠くに輝いているからこそ、どんなにつらくても前を向いて頑張れる。」とも述べています。人の真価が問われるのは、逆境に立った時、どのように行動するかです。そして、前に進むためには、たくさんの周囲の人の力が必要になります。

今年度、コロナ禍のため、様々な学校行事が中止・縮減されてきました。特に3年生は、修学旅行をはじめ、最後の部活動の夏季大会も中止になり、全力を尽くして悔いなく頑張ろう、楽しい思い出を創ろうと考えていた生徒にとっては、言葉にできないほどの喪失感だったと思います。しかし、同時に、今まで当たり前だったことが当たり前ではなく、これまで多くの人に支えられてできていたことを学ぶ大切な機会にもなりました。

運動会を終えて、「すべての力を出し切り、やり遂げた素晴らしい運動会だった。」「仲間がいたからこそ、思い出に残る楽しい運動会にすることができた。」と言った生徒の清々しい姿を見て、運動会という学校行事が一つの生徒の希望となり、輝いていたからこそ、生徒の思い出に残る素晴らしい運動会となり、運動会の成功につながったのだと感じました。そして、多くの仲間と共に力を合わせ、励まし合い、支え合っていた豊玉第二中学校の生徒の大きな成長を実感しました。

運動会で使用するテントを貸していただいた第一町会の皆さまをはじめ、改めて学校教育が地域、保護者の皆さまに支えられ、見守られていることを痛感しました。たくさんのご協力に深く感謝申し上げます。今後も学校が地域の希望の光となれるように、教育活動を進めてまいります。ぜひお力添えをいただければ幸いです。